東京都立港特別支援学校　学校だより

まなび舎

令和６年３月２１日（木）
東京都立港特別支援学校長
岡戸　良雄
No. １４

いつでも港特別支援学校は皆さんの母校です

校長　岡戸良雄

「春に三日の晴れなし」と言われように、暖かな日があるかと思えば、季節を逆戻りしたような日もあるこの頃です。普通科・職能開発科の３年生は本日高等部の全過程を終了した証として卒業証書が授与されました。皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんが入学した頃は感染症が流行し、家庭での生活や学校での活動が制限を受ける中でスタートしたことと思います。マスクの着用、手指消毒、黙食、調理活動や歌唱を行わないことなど様々な制限がありました。

こうした制限のあるときでも、卒業生の皆さんは日常の授業にも落ち着いて取り組みました。そして自らの目標に向かって一人一人が授業や実習に取り組みを続けてきたことはとても立派なことであったと思います。困難な時期を乗り越えて、今日という日を迎えることができたのはとても素晴らしいことです。自信をもってください。

明日からは一人の社会人としての生活が待っています。学校生活とは違って、楽しいことやうれしいこともあれば、大変と感じることもあると思います。自分で解決できないことや悩みなどがあるときには、家族や先輩などに話を聞いてもらうことも一つの解決方法です。それでももやもやしたときには、港特別支援学校で学んでいたときのことを思い出してみてください。港特別支援学校は、いつまでも卒業生の皆さんの母校です。

保護者の皆様、義務教育期間の９年間、そして本校高等部での３年間、通算 12 年間のお子様の学校生活の思いが想起されたことと思います。私たち教職員も、港特別支援学校で学んだ教え子たちがこれから社会に羽ばたいていく姿を見て、喜ぶとともに惜別の情を感じています。保護者の皆様にはこれまでの港特別支援学校での教育活動につきまして、御支援並びに御協力いただきましたこと、教職員を代表しまして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。卒業生の皆さん、これからも健康に留意しつつ、それぞれの進路先で自分の良さを発揮して、更なる成長を期待しております。これからも「元気」「根気」「勇気」の３つの「気」を大切にして、毎日を充実した日にしてください。

「これからもずっと」

普通科３年学年主任　今村彩子

短い学校生活でしたが、この 3 年間は喜怒哀楽がたくさん詰まった思い出の日々だったと思います。入学したときは「友達ができるのかな」「授業は楽しいのかな」「どんな先生がいるのかな」「毎日元気に通えるのかな」「先輩はやさしいのかな」と、これから始まる新しい学校に戸惑いがありました。しかし、今の皆さんはやってみようとチャレンジできるたくましさ、後輩の手本になれる頼もしさ、失敗から学ぼうとする前向きな姿勢、友達を思いやれる優しさなど、どれを取っても成長の素晴らしさを感じることができます。何よりも自分の将来を決めることができたことは、立派なことだと思います。これから新たな環境での生活が始まりますが、皆さんだったら大丈夫です。困ったことがあっても心配しないでください。支えてくれる方々がたくさんいるはずです。一緒にいることはできなくても、心の中はいつも応援しています。卒業おめでとうございます。

「そのままの自分と、変わるべき自分」

職能開発科　学科主任　山本　進

先日実施した進路報告会では、自身の長所・短所を理解し、力を発揮できる企業を間違いなく選択しているという、自信に満ちた報告に、皆さんの頼もしさを感じました。短所に挙げられる中に、「優柔不断」（意見をなかなか決められない）があります。しかし、その裏には、「他の人の意見を聞く」「相手を傷つけないようにする」というプラスの面もあります。同じように、「決断力がある」（＋）一方で、「他の人の意見を聞かない」「相手を傷つけやすい」（－）など、実は長所と思っていることがマイナスに働いたりします。自分にとって気に入らない短所を、プラスに考えられる社会人になってください。相手に優しい人になれると思います。また皆さんに会える日を楽しみにしています。